



平成 26 年 12 月 24 日

各 位

会 社 名 アンジェス MG株式会社
代 表 者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経営企画部長 米尾 哲治
電 話 番 号 03-5730-2641

日本臓器製薬との NF- κ B デコイオリゴを用いた椎間板性腰痛症治療薬に関する 国内における独占的開発販売契約の解消および開発戦略の変更

当社は、日本臓器製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：小西龍作、以下、日本臓器製薬）と日本における NF- κ B デコイオリゴを用いた椎間板性腰痛症を含む腰痛疾患を適応症とした治療薬に関する独占的開発販売契約を解消することに同意し、また当社における開発戦略を変更することといたしましたのでお知らせいたします。

当社および日本臓器製薬は、平成25年3月26日に当該製剤の日本を対象とした独占的開発販売契約を締結し、日本臓器製薬において非臨床試験の実施を進めてまいりましたが、この度、当該契約の解消について両社で合意いたしました。これは日本臓器製薬の開発方針の見直しによるものであり、NF- κ B デコイオリゴの安全性に関する懸念が理由ではありません。

なお、当社は当該製剤について開発戦略を見直し、本日「NF- κ B デコイオリゴを用いた椎間板性腰痛症治療薬の米国での臨床開発について」にて公表のとおり、米国での開発を優先して進めることといたしました。

NF- κ B デコイオリゴは、炎症性サイトカイン（細胞から放出される生理活性物質）を抑制することから、過剰な炎症や免疫反応を原因とする疾患の治療薬として有効性が期待されており、当社ではアトピー性皮膚炎、血管炎症による再狭窄など炎症性疾患の治療薬として開発を進めております。椎間板性腰痛症においては、痛みや変性を促進する因子を抑えることで鎮痛効果と共に椎間板変性に対して有効であることが期待されます。

椎間板変性などが原因の腰痛症に対する治療薬としては消炎鎮痛剤などを用いる対症療法しかなく、椎間板変性の進行抑制や修復を促す治療薬の開発が望まれており、当社はこれらのニーズに応える新薬の開発に迅速に取り組んでまいります。

本件による平成26年12月期の業績への影響はありません。また、平成27年12月期以降の業績に与える影響も軽微であります。

以上